

連載
漫画

『無職の学校～職業訓練校での200日間～』 完結記念インタビュー

職業訓練を受講した作者が語る

職業訓練の魅力

『前さえ向けば、きつと誰かと響き合える』

● 姫野部長 職業訓練校を舞台とした漫画「無職の学校～職業訓練校での200日間～」が完結されたことを記念して、JEED本部にお越しいただいた作者の清家孝春先生にいろいろとお話をお伺いしたいと思います。

● 姫野部長 この漫画を通して清家先生が一番伝えたいことはどんなことでしょうか。

○ 清家先生 僕は一人が好きで、誰ともしやべらず家でボーっとする時間も好きなんですけど、人と関わってこそ思い出がけできたり、人間たり得ることを実感できるというか。だから、無職だとか、思い詰めて生きづらさがあったりしたときに、一人でいるより、人と関わった方が幸せだったこともあるよってことを伝えたい。最終巻の最後のモノローグに「前さえ向けば、きつと誰かと響き合える」ってセリフを入れているんですけど、最終的に僕もそこにたどり着いたというか、そういうところだと思います。

● 姫野部長 「無職の学校」をどのような方（読者層）に読んでもらいたいですか。

○ 清家先生 連載を終えてすごく思ったのが、自分が仕事になかったら読みたいくないなと（笑）。もうちょっと明るくポップなものが読みたいと思うんで。仕事をしている人で「こういう経験ができる場所があるなら、辞めて新しいことをやってみようかな」と思える人に読んでほしいかな。でも、本当は、仕事が無い人に読んでほしいかな。を出してほしいというのを思ってたので、そういうものになったという自信はあまりないですが、是非仕事のこと悩んでいる人に読んでもらえたら、それが本当に一番うれしいです。

『幸せな時間を共有できる、体験できる』

● 姫野部長 改めて「職業訓練の魅力」とはどんなものでしょうか。清家先生が率直に感じていることを教えてください。

○ 清家先生 先生がいて、同じ仲間がいてという「誰かと一緒にやれる」ということだと思っています。昨今、人に会わなくても仕事を決めることができたり、就職するという結果は変わらないかもしれないですけど、それまでの時間が辛さだったりする。そういう幸せな時間を共有できる、体験できることが一番の価値だと思いますね。もちろん技術的なことを身につけることができるというのも当然ですけど、それプラスアルファがあるというのが良いところだと思います。

● 姫野部長 職業訓練を受講して良かったこと・苦労した点があれば教えてください。

○ 清家先生 良かったという部分は、訓練終了後は仕事をしていました。仕事を探すときの選択肢が増えたことですね。仕事を選ぶときに「ポリテクセンター関西で勉強したからできる」と思えたり、本を読むだけでは分からないような業界のお作法のようなところをちゃんと学べたということが大きかったです。苦労したなところはほとんどなくて（笑）。楽しんで、訓練期間が終わるときに「終わることが嫌だな」、「毎日行くところがなくなってきた感じが嫌だ」と思ったところですかね。充実していたし、心のよりどころになっていたというか。

『面接練習を直接できる
というのは訓練校の特色』

● 姫野部長 職業訓練校（CAD機械設計科）での学びで「現在」に活かしているものがあれば教えてください。

○ 清家先生 ちゃんと時間を把握し、配分して仕事を終わらせるという計画性みたいなものは、訓練校の学びで気づかれました。学ぶことで認識が変わったというか。絵を描くのと自分のペースになりがちで、それまで生産性ということに目が向かなかったので。

● 姫野部長 先生はあまり夜遅くまで作業はやらないうちにお聞きしましたが、ご自身の中で時間配分（午前中、午後ときつちり）ができていたということでしょうか。

○ 清家先生 できていると良いですけど（笑）。その（訓練校の）おかげで、そうできているということだと思います。

● 姫野部長 「就職」にあたって、指導員や事務方の職員のサポートや就職支援などで役に立ったことがあれば教えてください。

○ 清家先生 役に立ったことはたくさんありましたね。授業の面は当然そうなんですけど、カウンセリングは心の支えになりましたし、面接指導をしてくれる就職支援アドバイザーにもお世話になりました。面接練習を直接できるというのは訓練校の特色なのかなと思いますが、あの練習がなかったら、面接するときもちゃんと話せなかったと思います。

● 姫野部長 漫画にもそういうシーンがありましたよね。

○ 清家先生 練習のシーンはありますね。実際もまさにあんな感じで、僕が言われたことをそのまま描いたんですけど。その練習のおかげでというか。それこそ「だから話さな」とか「1分以内にまとめなさい」とか言われたんですけど（笑）、そういうのは勉強になりましたね。



OProfile

清家 孝春

1993年1月10日生まれ。愛媛県宇和島市吉田町出身。大阪府在住。

『雲がちぎれるとき』にて、第78回小学館新人コミック大賞青年部門入選。実際に職業訓練校に通っていた日々をもとに、『週刊ビッグコミックスピリッツ（小学館出版）』にて『無職の学校～職業訓練校での200日間～』を連載。

『隣に人がいて、関わりながら頑張っていく
という経験がすごく大切なものになった』

● 姫野部長 気軽に利用いただきたいと思っ
ているのですが、職業訓練、ポリテクセンターのことはあまり知られて
いません。もっと多くの方に認知していただきたいと考えていま
すが、どのようにすれば職業訓練の存在を広く認知してもらえ
るようになると思いますか。

○ 清家先生 僕の場合はハローワークの窓口の人に「まだ
若いんだから行ってみたら」って言われて行くことになりま
した。ポリテクセンターの充実した設備や訓練に惹かれ
て感じます。職業訓練、ポリテクセンターが、魅力的な
のは事実なので、もっと伝わると良いですね。

● 姫野部長 最後に、職業訓練に興味をもっている方、6
か月間頑張ろうと思っ
ている方、職業訓練未経験の方への
メッセージをいただけますか。

○ 清家先生 作品を描いて、僕の中で思い出の場所になっ
たんです。一生懸命やったり、隣に人がいて関わりながら頑
張っていくという経験がすごく大切なものになったので、これ
から新しい作品を作っていく中でも、僕の中で大切にしてい
きたいと思っ
ています。世の中、つらいこと、生きづらいこ
ともあると思いますが、災害もあつたし、どこかで幸せを探
していくじゃないですけど、そういう姿勢を一緒にとっ
てい
きましょうという声をかけたかったです。だから一緒に頑
張
っていきましょうっ
ていう風に思います。

● Interviewer

JEED 本部

求職者支援訓練部(職業訓練を担当する部署)

姫野 部長

ポリテクセンター関西に勤務していたときから『無職の学
校』の連載にあたって、先生と交流していた経緯もあり、
今回、求職者支援訓練部長の姫野がインタビューを
務めました。



インタビューは終始和やかな雰囲気で行われました



無職の学校～職業訓練校での200日間～ せいけ たかはる 完結記念「清家 孝春 先生」 JEED本部来訪の1日



当日は、理事長、理事長代理、職業訓練を担当する部署の役職員にご挨拶いただき、その後高度ポリテクセンターの訓練風景を見学していただきました。また、清家先生が職業訓練校(ポリテクセンター関西)に通われていた当時の担任(現、高度ポリテクセンター勤務)も一緒に記念撮影をしました。

【編集後記】

清家先生には、1つ1つ丁寧に答えていただき、非常に濃い内容のインタビューとなりました。また、小学館週刊ビッグコミックスピリッツ編集部にもご協力いただき感謝しています。

清家先生は、ポリテクセンター関西に通う前までは、まったく職業訓練について知らなかったそうですが、そこからポリテクセンターに通い、魅力的な場所だと感じていただいたからこそ、漫画の題材にさせていただけたのだと思います。インタビュー中でも「訓練校に通って良かった」、「訓練が終わるのがさみしかった」、「思い出の場所になった」など語っていたのが印象的でした。1人でも多くの方に職業訓練を知ってもらい、通っていただいた方に、ポリテクセンターは、清家先生が感じたように魅力的な場所だと思っ
てもらえるよう取り組んでいきたいと思っ
ています。

● ハロートレーニング(離職者訓練・求職者支援訓練)とは??

ハロートレーニング(離職者訓練・求職者支援訓練)は、仕事をお探しの方を対象とした「無料(テキスト代は自己負担)の職業訓練制度」です。

キャリアアップや希望する就職を実現するために必要な職業スキルや知識を習得することができます。

● 離職者訓練とは??

全国のポリテクセンターで実施しており、ものづくり分野での再就職を希望する方を対象に、標準6か月の職業訓練を受けることができます。

※清家先生はポリテクセンター関西にて離職者訓練を受講されました!!

● ポリテクセンターとは??

全国の職業能力開発促進センター及び訓練センターの愛称です。

● JEEDの都道府県施設のお問い合わせ先はこちら

URL : <https://www.jeed.go.jp/location/pref.html>



清家先生直筆のサイン